

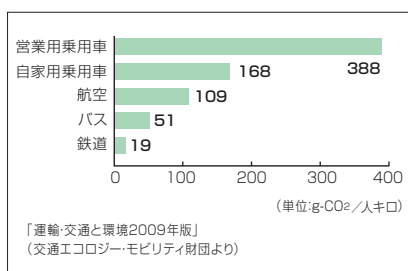
地球温暖化防止の取り組み(公共交通の利用促進)

鉄道の環境優位性

鉄道は環境にやさしい交通手段と言われており、一人一人運ぶためのCO₂排出量はマイカーの9分の1とされています。

当社では環境方針の重点実施項目に「公共交通利用促進」を掲げており、鉄道の環境優位性をPRし、マイカー利用の方を鉄道利用に導くことでCO₂削減に努めています。

1人を1km運ぶのに排出するCO₂の比較(平成19年度)



パーク&ライド

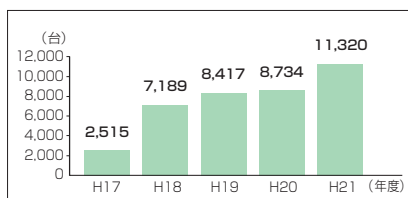
当社では、京都方面に訪れる観光旅客のパーク&ライドを行政機関と協同で取り組んでいます。とりわけ京都東山地区には、年間約1,500万人の方が来訪されますが、特に秋の行楽シーズンの休日に集中するため、周辺道路は大渋滞し、バスの遅延や緊急自動車の通行が困難になるなど地域交通問題となっています。

そこで、大津市の浜大津公共駐車場や沿線の駐車場を掲載したパンフレットを高速道路PAなどで配布し、マイカー利用者にパーク&ライドへの移行を促すことで、京都市内の渋滞緩和と公共交通利用促進による環境負荷低減に努めています。



パーク&ライドパンフレット

浜大津パーク&ライド利用者の推移



サイクル&ライド

市街への自動車の流入を抑制して、電車の利用を促進するため、関係行政と連携し、必要に応じた駐輪場の設置や現在問題となっている放置自転車対策についての協議を進めています。

平成21年度は天満橋駅、なにわ橋駅で駐輪場を新設しました。



天満橋駅西駐輪場

なにわ橋駅駐輪場

モビリティマネジメント

当社では、沿線自治体との連携を深め沿線の環境への取り組みに協力しています。平成17年度からは宇治地域で実施している「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト 宇治」に、京都府、宇治市、地元企業、交通事業者のほか、NPO法人京都地球温暖化防止府民会議も参画し、宇治地域通勤交通社会実験を推進しています。

この実験では、宇治地域に勤務するマイカー通勤者向けに「通勤マップ」を作成、

環境負荷低減への自発的な交通行動を促したほか、乗り心地の改善にも効果があります。なお、現在も通勤マップの改正に協力しています。

他社線との連携強化

京都は年間約5,000万人もの観光客が訪れる国際観光都市であり、なかでも紅葉シーズンは観光客数がピークとなり、近年では、自家用車に加え、JR京都駅から発着するバスやタクシーなどによる交通渋滞と排気ガスによる環境問題が深刻化しています。

そこで、当社は西日本旅客鉄道(株)と協同し、駅の表示やパンフレットなどにお互いの路線表記を充実させ、東福寺駅を経由した鉄道の乗り継ぎ【(JR)京都駅⇒(JR)京阪東福寺駅⇒(京阪)七条・清水五条・祇園四条】をPRし、交通渋滞のない鉄道の利用を促進することで、環境負荷軽減に努めています。

TOPICS

新淀駅の環境対策

平成21年9月12日に下り線が高架化された新淀駅では、環境対策として「調光システム」を採用しています。調光システムは、屋外からの自然光の明るさを照度センサーが検知し、それに合わせて照明の照度を25~100%の範囲で調整するシステムです。

新淀駅は、ホーム屋根に膜構造を採用していることとコンコース階に窓を多く設置していることから自然光が採り入れやすくなるため、ホームとコンコースの蛍光灯に本システムを導入しました。

通常、金属製の屋根材を使用した駅の場合、照明は常時点灯していますが、本システムの場合、ホーム階の照明は約半分の点灯時間で済みます。現在工事中の上り線ホームにも同様の省エネ設備を導入し、環境にやさしい駅の完成を目指します。



膜構造を採用したホーム屋根



照度センサー